

中国人エリート選手の国際移動に関するメディア社会学的研究

—1988 年から 2024 年にかけての「人民日報」の報道を用いて—

スポーツ文化研究領域

5023A026-9 祝 一帆

研究指導教員: 中澤 篤史 教授

研究目的

本研究の目的は、中国の卓球選手が海外に移動する状況や、他国から中国に帰化する選手の動向を明らかにすることである。また、それに対して中国の主流メディアである「人民日報」がどのような報道を行っているのか、その特徴や視点を分析する。

この目的を達成するために、まず、海外に移籍した中国の卓球選手のデータを収集・整理する。次に、他国から中国に帰化した選手のリストを作成する。最後に、「人民日報」の報道を中心に関連する記事を収集・分析し、選手の国際移動や帰化に対するメディアの視点や論調を探ること。

第1章 本研究の目的と方法

第1章では、中国人の卓球選手の国際移動や帰化現象が社会やメディアに及ぼす影響を明らかにするため、研究背景と先行研究を整理した。グローバル化の進展に伴い、多くの中国人選手、特に卓球選手が海外に移籍し、「海外兵团」として

活躍する一方で、他国から中国に帰化する選手の増加も顕著になっている。これらの現象は国民感情やスポーツナショナリズムに深い影響を与え、特に帰化選手や「海外兵团」に対する中国社会の見解や態度に注目が集まっている。先行研究では、スポーツのグローバル化や選手の移籍・帰化の背景、それに伴う社会的影響について議論されており、メディアが帰化選手のイメージ形成や社会的認識に果たす役割の重要性が指摘されている。ただし、メディア報道が帰化選手や「海外兵团」のイメージ構築にどのように寄与しているかについては十分に研究されていない。本研究では、この課題に取り組むため、中国の主流メディア「人民日報」の報道内容を分析し、中国人卓球選手の国際移動や中国の帰化選手に対する認識を明らかにすることである。

第2章 「海外兵团」に関する量的分析と質的分析

第2章では、「海外兵团」のデータは主にオリンピック公式サイトで収集した。

1988年ソウルオリンピックから2024年パリオリンピックまでの卓球選手を対象に、性別、生年月日、出生地、帰化国などの情報を収集した。

「海外兵团」の選手数は1988年から増加し、2016年にピークを迎えた後、2021年以降減少傾向を示している。性別分布では、女性が78名、男性が31名と女性の割合が高い。出身地は遼寧省や山東省が多く、帰化国ではシンガポール、オーストラリア、アメリカが上位を占めている。「海外兵团」は卓球に集中して、選手の生年月日では1980年代生まれが最も多い。

「人民日報」の報道において、「海外兵团」は中国卓球界の国際的影響力を象徴するが、社会的評価や政策対応、選手たちの挑戦や貢献についての議論が行われている。グローバル化と経済市場化の進展に伴い、スポーツ人材の流動がもたらす課題とその意義が検討されている。「海外兵团」は競技の枠を超え、文化交流や社会貢献の一環として評価され、スポーツの社会的意義を深める役割を果たしていることが改めて強調されている。

第3章 中国の「帰化選手」に関する量的分析と質的分析

第3章では、2008年から2023年までに帰化した47名の選手を調査し、リストを作成した。帰化選手の多くはアイスホッケー（約30名）とサッカー（約10名）に集中し、出身国は主にアメリカ（15名）とカナダ（16名）。性別では男性が63%、女性が37%を占める。時期区分として、2008年前を「空白期」、2008～2018年を

「萌芽期」、2019～2024年を「発展期」と定義する。特に発展期では帰化選手の数が急増し、試合成績だけでなく、社会的意義や文化交流にも注目が集まる。新聞報道では、150件のサンプルを収集し、試合情報、社会的認識、背景解説、移籍、社会活動など11項目に分類。華天や谷愛凌の例では、帰化選手が競技成績だけでなく、文化的架け橋や社会貢献者として描かれる傾向が明らかになった。

第4章 終章

本研究の総括では、中国における帰化選手の実態とメディアでの描写が明確化された。第1章では、帰化選手や「海外兵团」の歴史と現状を概観した。第2章では、「海外兵团」に関する量的および質的な分析を通じて、国際化や社会的意義が議論された。第3章では、帰化選手の急増やメディア分析を通じて、彼らが単なる競技者ではなく、文化の大使や社会への貢献者としての役割を果たしていることが示した。

本研究の意義は、帰化選手の現状を多角的に分析し、帰化政策の改善や文化交流の促進の基盤を提供する点にある。しかし、データの制約や伝統的なメディアへの偏りといった限界もある。今後の研究では、新しいメディアやSNSを含めたより多いアプローチが求められる。また、データソースを多様化し、量的・質的分析の精度を向上させることで、帰化選手の社会的影響をより深く理解することが期待される。